

# 紅茶専門CAFÉの空間デザイン

## —企画提案から開業までの店舗デザインのプロセスを知る—

学校名 修成建設専門学校

所属学科 著者名 空間デザイン学科2年 ○前田 咲夏 ○鉛口 実由 ○中西 真由 ○岩出 大和  
(指導教員：阪本 剛史)

### 1. オーナーとの出会い (令和2年10月下旬)

本プロジェクトのきっかけは、本校へのオーナー夫妻からの問い合わせから始まりました。不動産や現場管理などの経験を持つオーナーが脱サラによりご夫婦でカフェを開業したいという内容で、オーナーの祖母の代から存在する大阪北区の2階建て木造家屋をリノベーションしカフェを開業する事が目的でした。内外装デザインにおいては無知であるため空間デザインを得意とする本校の学生による斬新で若い感覚により建物のトータルデザインを提案して頂きたいとのご相談でした。建物は戦前より残る木造建築でしばらく使用されておらず、各所に傷みも目立つため、修繕を兼ねた内装リノベーションを望まれました。計画地周辺は梅田中心地からも近く古くから残る町家も多く存在するノスタルジックで若い世代にも人気のエリアでした。その地での商売を成功させるための近隣調査や人通りなどのマーケティング調査も独自に行われ、要望書と併せて資料の提供を頂きました。

### 2. 現地調査 (令和2年12月下旬)

解体を前に現地の状態を学生と共に確認。提案に先立って周辺環境や内部のイメージなどを確認し、手分けをして細部の寸法を記録していきました。現地調査や採寸を直接行う事にも慣れていない学生にとって、どのように現地を記録するか、コンベックス (メジャー) をどのように使用するのかなど実務の中では当たり前に行われている事を実際に体験することは貴重な経験であり、学校では感じる事の出来ない臨場感に溢れ、終始笑顔で記録写真と採寸を終えました。

### 3. 初回プレゼンテーション (令和2年12月初旬)

お問い合わせを頂いてから約1か月半後に提案プレゼンを行う工程表を組み、参加学生を募りました。冬休み前のタイミングであることから授業としての取り組みが難しかった為、有志学生を募り、希望者は12名となりました。クラスや性格の違う学生の特徴や強みを分析し6チームに分けそれぞれが提案を行うスタイルでプレゼンテーションを行いました。オーナーの希望を様々なスタイルで提案へと昇華させた多種多様な提案内容には大変万足頂きました。結果オーナーご夫婦の希望もあり、どれか一つの案に絞るのではなく、それぞれの案が持つ可能性を引き出し、強みや良さを総合したデザインにまとめることとなりました。

### 4. 解体そして誤算 (令和3年1月下旬)

いよいよ解体が始まり戦前から立つ建物の構造体が徐々に姿を見せ始めました。当初オーナーが予定していた工事は主に内装を中心としたものでしたが、解体を進める中で主要構造体の劣化や歪みが激しく、この先安全に建物を使用していく責任から基礎や柱・梁の補強や取り換え作業を多数必要とする結果が出てきました。内部だけでなく外部も大きく手を入れる必要性が出たことと、無計画に増築された箇所を元の状態に戻すため一部の減築も計画する事となり、内装のデザインとして関わる予定でしたが、外装デザインも一新しトータルでの建物のデザインへと提案範囲が大きく振り切りました。

■MAEDA SANA

KANAGUCHI MIYU

NAKANISHI MAYU

IWADE YAMATO

■代表著者の連絡先 (E-mail) 阪本剛史 (指導教員)

[sakamoto@syusei.ac.jp](mailto:sakamoto@syusei.ac.jp)

## 5. 内装工事のスタート（令和3年3月）

構造補強工事を終え、大工工事と並行して内装工事がスタートしました。ブラッシュアップされた最終的な計画内容に対し学生チームの役割分担を行い、内装完成へと取り組む計画を立てました。

1：照明計画、2：内装壁面ディスプレイ計画、3：外装デザイン、4：実施模型製作のチーム分けです。それぞれのチームが工程表に従って作業を進めていきます。工事がスタートした後では時間を無駄に出来ず常に即断即決の緊張感が生まれます。現地状況に合わせた計画内容の調整や、解体による内外部の明るさ感の違いによつての照明計画の変更など、携わる学生にとっては緊張感とともに着々と出来上がっていく空間への期待感が手に取るように伝わってきました。

## 6. 仕上げ工事（令和3年4月初旬）

内装工事が全て終了し、いよいよ棚の取り付けやディスプレイ、照明器具の取り付けが行われました。ディスプレイの一環として以下のような作業を行いました。

1：内装壁面へのモザイクタイル貼り  
2：照明器具の配置高さの調整  
3：ディスプレイやフェイクグリーンなどの装飾タイルを貼る事や実際にOPENする店舗へのディスプレイは勿論皆初めての経験で迷いながら何度もずらしたり、上げたり下げたりを繰り返し完成へと近づけて行きました。最初のご相談から約半年間に渡るプロジェクトの完成を目の当たりにし、作業をする学生の面々には笑顔が溢れいよいよ実感が沸いてきた様子でした。

## 7. 開業（OPEN）

令和3年4月17日に開業日が決定し完成した店内に指導教員と関わった学生が集い、それぞれの携わった場所の確認と記念写真を取り、オーナー夫妻と協同で作って来た店舗、紅茶専門カフェ『紅茶美人』プロジェクトを終了いたしました。

## 8. 振り返りと効果

このプロジェクトの最大の成果は、計画したことが実際に出来上がることにあります。

通常学内での取り組みは仮想の課題制作に終始し、リアルな空間を作り上げる事が出来ない事がほとんどである事に対し、実空間をデザインし完成した建築空間を体感する事が出来るという事は大変貴重です。

仮想の課題にはリアリティが伴わず、緊張感や責任感が薄れ、やりっ放しで終わってしまう事が大変多く見られますが、実施を伴うプロジェクトへの参加は実際に使う方の顔が見え、そのコストや施工手順を理解しながら進めることで、やがて経験する実務現場での疑似的体験に繋がり心の準備を行う事が出来ます。また、絵にかいたイメージがリアルな現実として出来上がる体験はモノ創りを目指す学生にとってまたと無い職業実践教育の場ともなります。

職業実践訓練教育をうたう本校の取り組みの中で、このような産学連携プロジェクトは、学生にとって緊張感や責任感を認識する良い機会となります。作る責任を背負い、使う立場に立って考える実施プロジェクトはSDGsの理念にも通底し、各々の目指す未来が社会の掲げる課題や問題に直結しているのだと感じる事でしょう。

今回のプロジェクトを通して学生には、完成した後の経過も観察し、街に開かれ機能する空間からさらに多くの事を感じ取って欲しいと願います。

紅茶専門 CAFÉ プロジェクト参加学生  
修成建設専門学校

前田 咲夏、鉛口 実由、中西 真由、岩出 大和、  
中井 愛、樋口 梨央、中田 美生、岩根 菜由、  
秦井 穂、角田 真鈴、辰巳 虎太朗、大和 千沙都  
(順不同)

指導教員：阪本 剛史